

個人、家族、会社の順で幸せに

「今回のイベントの趣旨から聞かせていただくと、ボクの方針は個人の幸せ、家族の幸せ、会社の幸せ、この3つで順番もそのまま。しかし、会社生活で社員が幸せにならなければ家族の支援をしようとはならないですね。だから(家族を)招待するんじゃないか、一緒にやりますよ」と、みんながいきいきと仕事できた会社は絶対もあるからですか。そうう意味で今日は「笑」みたくな感じですか。

「僕は昨日まで上海にいて、どんな企画でどんな形ですか、中身あまり知らないんです。社長はお金だけでしょ。うたいみたいな感じで(笑)。前回は世帯単位、天彦産業は家族参加のイ

「私自身がいますが、朝、行ったりして」
「と言われて出てくるようにしてあげよう。スタートが違っても、働きが違っても元気が会社に来るんですよ。そういって、このなにか()でいって、天晴(あっぱれ)運動して社内でもやってるじゃないですか。あれも朝、会社に来たら、おはようございます」と大きな声を掛け合っているわけですね。ただ、そういってても家ではなかったらどうですか。あんなに悪いだけやなくて、ママエも家族をちゃんとサポートしてあげたいですね。今日のは早く帰って病院へ行くと許可もできる。そういって上と下の信頼関係ができる会社じゃないんですよ。」

「ウチは上司になったら(部下)の生活、人生にかかわれと言っています。自分らの家族もそうですけど、みんないいまはらうまへいってあげたいわけですね。」

「公認混同しろ」と言われてますね。一桶口克彦会長も「公認混同しろ」と言わせない問題持つところですか。親父が病氣やとか、そういってのを知って、どこで働きながら、今日では早く帰って病院へ行くと許可もできる。そういって上と下の信頼関係ができる会社じゃないんですよ。」

「公認混同しろ」と言われてますね。一桶口克彦会長も「公認混同しろ」と言わせない問題持つところですか。親父が病氣やとか、そういってのを知って、どこで働きながら、今日では早く帰って病院へ行くと許可もできる。そういって上と下の信頼関係ができる会社じゃないんですよ。」

「公認混同しろ」と言われてますね。一桶口克彦会長も「公認混同しろ」と言わせない問題持つところですか。親父が病氣やとか、そういってのを知って、どこで働きながら、今日では早く帰って病院へ行くと許可もできる。そういって上と下の信頼関係ができる会社じゃないんですよ。」



経営理念を熱く語る樋口社長

かつて本紙で紹介した料理対談2回(の金剛山登山など、社員(と家族)参加行事を次々と実施する天彦産業。8月5日の『子供参観日』が8月12日、読売テレビ「ニコニコクラブ」で紹介されたのに続き、9月27日には「天彦カーニバル」が行われた。こうした社員と家族参加行事への積極的な取り組みについて、社長の樋口友夫氏にその思いを聞いてみた。

天彦産業社長 樋口友夫氏に聞く



子供も多数参加した天彦カーニバル

「その中で、いとこ()の関係が冷たくなっていくんですよ。ボクはそう思うんです。今の教育に対して真向かう反対と思ってる人間、ネガティブ族ばかり世の中に輩出してね。受験、受験でふるい落とされて出てくる悪いのを世の中から勝手に決めてしまっ」。

「大企業だとしても、家族も加わっているイベントはなかなかできないかも。そうじゃなく、ボクは()の社長と話したら、『樋口さん、デューボンとかアメリカで降々としている企業は社員第一主義でやっていますよ。それを聞いてびっくりしました。米企業が日本企業の強さを感じていると、やっぱりこれくらいの生きがいとか、いろいろな会社にするとう貴かなあきません。そういう意味では読売テレビさんが積極的にしてくれているラッキーでした。ただ、再三、インタビューを受けたのに、これほど放り込んでくれへんかっ(笑)』」。

「支那の介入を要請されたいですか?」

「彼は革命を起したいんだと思いましたが、それを一掃するのにはボクが力になります。だから、樋口さん、入ってください。言うてますけど、彼に使われるのが分かってるから、(樋口)会長にまかせてボクは入らないと固辞して(笑)」。

佐久間特殊鋼が支援

仕事と育児・介護の両立

佐久間特殊鋼(本社 名古屋市中区浦里5丁目2番50番地)社長 佐久間貞介氏は、『ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)応援宣言』を行なった。これは同社の「価値創造企業」・「環境配慮」と並び経営理念である「夢実現企業」の具体化を進める取り組みの一環。

『ワーク・ライフ・バランス応援宣言』への積極的な取り組みが認められ、今年6月に厚生労働省所管の財団法人21世紀職業財団より「職場風土改革促進事業実施事業主」として、全国300社の1社(愛知県では10社)として指定を受けた。

「職場風土改革促進事業」は仕事と育児・介護との両立を支援する事業で、指定には常時雇用する労働者が300人以下(佐久間特殊鋼は従業員100人)

た事業主に助成金(1年度目50万円、2年度目50万円、ほか2年度目の加算50万円)が支払われる。『ワーク・ライフ・バランス応援宣言』を両立目標の得点が向上するなど、成果を挙げ、久間特殊鋼では社員が

で、かつ子育て世代の労働者が50人以上の企業、職場家庭間立推進者の選任など5項目すべてを満たすことが要件となる。

事業実施前に比べて実施するにあたり、佐久間特殊鋼では社員が

ら「Happy Company プロジェクト」のチームメンバーを募集、社員参加型で課題の解決に取り組む。課題としては働きやすい職場を目指す、育児介護休業制度はも

ちろん、育児介護休業復帰後の短時間勤務制度を取得しやすい制度に柔軟に整備する。②働きがいのある職場を目指す、休業復帰後の評価制度を納得性の高い制度に整備する。③復帰しやすい環境整備のため、育児休業中または復帰前後の教育制度を策定する。④社員の制度活用がスムーズになるよう、周知徹底など。

勉強の成績だけで、それがつがれずに生き残っているのは無形の財産のおかげなんです。周りから支援を受けて、一生懸命、頑張ってくれる社員がいたから。今、社員にいろいろ頑張らせてくれている。私も頑張らせてくれている。もう、それはいいんですけど、いざとなら結果して、あれと訴えて、それが一番強い会社と思います。いざとなら集まってもらっている会社を好きになつてもらいたいです。」

「ここで働いてよかったです。中小企業の社長の務めは数字を出すことでしょうか。そうじゃなく、ボクは()の社長と話したら、『樋口さん、デューボンとかアメリカで降々としている企業は社員第一主義でやっていますよ。それを聞いてびっくりしました。米企業が日本企業の強さを感じていると、やっぱりこれくらいの生きがいとか、いろいろな会社にするとう貴かなあきません。そういう意味では読売テレビさんが積極的にしてくれているラッキーでした。ただ、再三、インタビューを受けたのに、これほど放り込んでくれへんかっ(笑)』」。

「支那の介入を要請されたいですか?」

「彼は革命を起したいんだと思いましたが、それを一掃するのにはボクが力になります。だから、樋口さん、入ってください。言うてますけど、彼に使われるのが分かってるから、(樋口)会長にまかせてボクは入らないと固辞して(笑)」。

ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和) 目指す

「公認混同しろ」と言われてますね。一桶口克彦会長も「公認混同しろ」と言わせない問題持つところですか。親父が病氣やとか、そういってのを知って、どこで働きながら、今日では早く帰って病院へ行くと許可もできる。そういって上と下の信頼関係ができる会社じゃないんですよ。」

「自分がイヤやからしないと言ってますよ。彼、ボクはこの業界に入って年下を尊敬できるやつができた」

「出動のタイムレコーダなし、精算も領収証なしというわけだ。」

「自分がイヤやからしないと言ってますよ。彼、ボクはこの業界に入って年下を尊敬できるやつができた」

「出動のタイムレコーダなし、精算も領収証なしというわけだ。」